

第7回史跡等における歴史的建造物の復元のあり方に関するワーキンググループ 議事要旨

【事例紹介の概要】

- RC造の小田原城天守閣では、柱の間に耐震ブロックで補強したり、鉄骨ブレースを入れることなどで対応をした。木造による天守再現の可能性も残すために、コンクリートの中性化は行わなかった。
- また、リニューアルにあわせて、天守の模型から把握できた須弥壇状になっている内部の一角の意匠を木造で再現した。
- SRC造の大阪城天守閣では、コンクリートの再アルカリ化を行い、コンクリート内部の腐食を防ぐ延命処理を行った。

【意見交換】

- コンクリート自体は、こまめにメンテナンスを行っていけば、相当長く持つものであり、様々な要素や環境によって左右されることもあるが、こまめな検査でモニタリングを行い、その都度対処を講じていけば、そのような要素も少なくなっていくだろう。
- 再アルカリ化後の定期点検等は、当該技術の発展にも貢献するデータとなり得る。
- RC造等天守を見た来訪者や市民が意識することと、史跡の整備主体の狙いに齟齬がないか留意しながらRC造等天守の在り方を考える必要がある。
- 再現されたRC造等天守は史跡に供されるものではあるものの、RC造等天守を建てた際のいきさつ、その後の市民の当該RC造等天守に対する意識なども踏まえ、社会的な意義を把握してその在り方を考え、それを保存活用計画等に明示する必要がある。